

受験番号	氏名
------	----

令和6年度埼玉医科大学保健医療学部一般選抜試験（前期）看護学科
小論文

注意事項

1. 試験時間は60分。
2. 問題は指示があるまで開かないこと。
3. 解答を書く前に、解答用紙にあるすべての受験番号・氏名の欄に記入すること。
4. 解答は解答用紙に書くこと。
5. 解答はすべて横書きで書くこと。
6. 下書きには問題用紙の余白を利用すること。
7. すべての配布物は終了時に回収する。
8. 質問がある場合は手を挙げて監督者に知らせること。

問1 次の文を読んで、本文をまとめたうえで、自分の考えを述べなさい。(250字以内)

「痴呆(ちほう)」から「認知症」へと呼称が変更され約20年がたつ。85歳を過ぎれば4割の人になるといわれ、病気のとらえ方は変わってきた。とはいえ、いまなお認知症になったことを恥と感じ、周囲には言いづらいと感じる当事者や家族もいるだろう。

認知症になっても希望を持って暮らすことのできる「共生社会」の実現に向け、超党派の国会議員が3月下旬、「認知症基本法」の骨子案を公表した。患者が自立して日常生活を営むことができるようにすることなどを理念とし、国や自治体が講じるべき施策や治療・予防の研究推進が明記されている。

2019年に政府の「認知症施策推進大綱」が作られ、対策が進められてはいる。ただ、06年に議員立法で成立した「がん対策基本法」をきっかけに、がん対策は大きく前進した。それを思えば、法案提出に向けた議論や調整を加速させてほしい。

残る大きな課題は「予防」のための取り組みや研究開発の推進をめぐる表現だ。認知症の予防法は確立されていない。当事者からは「なっちはいけない病気」だと受け取られ、「なったのは努力をしなかったから」といった誤解や偏見につながりかねないとの懸念がある。

現在の大綱でも、「予防」とは「なるのを遅らせる」「なっても進行を緩やかにする」と定義されている。予防に努めれば認知症にならないかのような印象を与える書きぶりは、避けるべきだ。

同時に、治療や予防の研究開発が進むことへの期待は大きい。

今年1月、代表的な認知症であるアルツハイマー病の進行を抑える薬の承認が申請された。病気の原因と考えられるアミロイドβというたんぱく質に作用する新しいタイプの薬だ。「効果を実感するのは難しい」との指摘もあるが、薬の開発に光が見えてきたとの声も聞く。

アミロイドβは、20年以上かけて脳に蓄積する。より早い段階から予防や治療を始めれば、発症を抑えたり、遅らせたりすることができる可能性もある。そのため血液検査のような負担が少ない方法の研究開発も進められている。希望すれば当事者や家族が研究に参画できるような仕組み作りが必要だ。

ただ、認知症になっても前向きに生きていける社会の実現が前提となる。当事者でつくる「日本認知症本人ワーキンググループ」がつくった「希望宣言」は、冒頭で「自分自身がとらわれている常識の殻を破る」とうたう。同じように「何もできなくなる」といった認知症への古い先入観や病気への意識をまずは国民全体で変えていかなければならない。

(朝日新聞「社説」令和5年5月6日 一部改変)

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる

承諾番号 「24-1013」

問2 図1は、日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをする時間のゆとりの有無に関する調査結果です。図から読み取ったことを述べたうえで、自分の考えを述べなさい。数字を使う場合は桁数や小数点に関わらず、ひとまとまりの数字は1マスに記入してください。(200字以内)

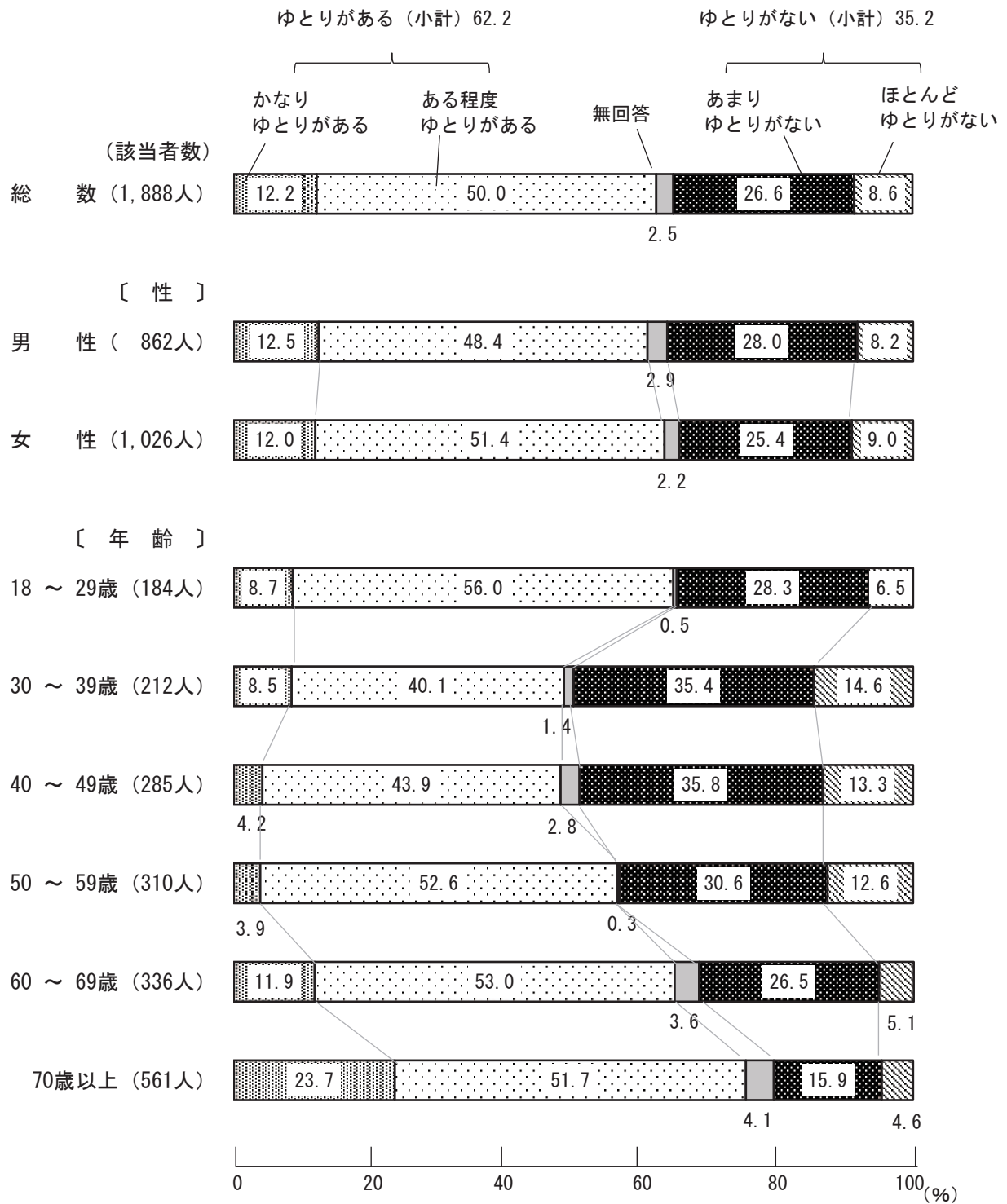


図1 時間のゆとりの有無

(内閣府「国民生活に関する世論調査」令和4年10月調査 一部改変)